



会報 No.146 令和4年1月号

新年のご挨拶

一般社団法人八王子市私立保育園協会 会長 石井 淳

新年明けましておめでとうございます。会員園の皆さまにとって良い年となりますことを心より祈念申し上げます。

昨年は年始から新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、8月はオリンピック、パラリンピックに沸く中、爆発的に感染が広まり、東京都の感染者数は6千人に迫るまでになりました。八王子市においても昨年の保育・教育施設における感染事例は200例を超えました。この間多くの園で対応に苦慮されたことと思います。それでも年末に向け信じられないほど感染が収束し、保育園においても保育や行事など、少しずつ日常を取り戻しつつありました。協会でも役員会をほぼ2年ぶりに対面で行い、久しぶりに顔をつきあわせ、やはりリモートにはない良さを感じられました。

しかし、年が改まり再び感染の拡大が懸念されています。今回の新種株はこれまでにないほど感染力が強く、すでに第6波に入ったとみなされています。市内の保育園においても感染事例が出てきています。また感染におびえる日々となりますが、八王子市では、他市に先んじて3回目のワクチン接種に加え、今後5歳から11歳のワクチン接種を予定しており、感染拡大の抑止力となることが期待されます。今後、第6波が収束し、平穏な日常が一日も早く取り戻せることを願わずにはられません。協会としては、残念ながら全体会や役員会をもうしばらくリモートで実施することになりそうです。引き続きご理解、ご協力をお願い致します。

今年の新成人は120万人で、昨年に比べ4万人も少ないそうです。推計を始めた昭和43年以来最低の人数で、総人口に占める新成人の割合は12年連続で1%を下回っています。若年層の減少は就労人口に直に影響するので、保育士の人材不足が解消することはまだまだ難しそうです。今後も国の更なる処遇改善に期待しながら、保育の現場で保育士という仕事そのものの魅力を高める努力をする必要を感じます。

八王子市の令和4年度4月入所申請数は、2,200人で3年度の2,364人に比べ164人減少しています。少子化が進み、就学前児童数(0～5歳)が前年比で958人(4.3%)減少していることを考えると当然の結果かも知れません。令和3年4月時点では、保育園において0歳児・3～5歳児の欠員が目立ちます。欠員率(全園数の内、欠員となっている園数の割合)でみると、市内14地域の内、0歳児では欠員率が70%を超える地域が6地域、3歳児では欠員率が50%を超える地域が6地域、4・5歳児では欠員率が50%を超える地域が8地域にもなっています。欠員が一部の地域だけの問題でないことが伺えます。八王子市にも公立園の受入人数削減や各園の定員変更をして頂いておりますが、これらの方法でいつまでもこの問題に対応していくのは難しいと考えられます。正月早々、良い話でなく恐縮ですが、この少子化による欠員の問題を会員園の皆さんもそう遠くない将来に迫る危機だと是非とも認識して頂きたいと存じます。今後、協会としましても、八王子市と協議を重ね方策を探って行きたいと思っております。

今年も八王子市の子どものために八王子市の行政および議会からご支援を頂きながら、各団体とも密接に連携をとりつつ、八王子市私立保育園協会の活動を行っていきたく存じます。引き続きご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和3年12月 一般社団法人 八王子市私立保育園協会 役員会報告

令和3年12月21日に「なか安」にて、1年半ぶりの対面で役員会を開きました。

石井会長より挨拶を頂きました。月一回のZOOMで既に顔なじみになっていた新役員の皆様を紹介します。フェロー第二保育園 中原先生・光明第八保育園 太田先生・横川保育園 相見先生・さつき保育園 斎藤（雄大）先生・なみのり保育園 石井先生・せいがの森こども園 筒井先生です。新役員の皆様よろしく申し上げます。

八王子市子ども家庭部子どもの教育推進課、秋元氏より、「保育園、幼稚園を取り巻く環境変化（将来予想）公立保育園の方向性について」の行政説明がありました。

- ・2028年には定員過剰が751名に到達する見込み。
- ・保育園と幼稚園の利用率は平成28年に逆転し、保育園利用者の方が多くなった。今後も、更なる児童数の減少と共働き家庭の増加により、差が広がっていくと予想される。
- ・公立保育園（公設公営園）の方向性として、段階的に定員数を減らしつつ、運営形態の小規模保育園及び認定子ども園等への移行、一部公立園の廃園等も含めて検討しているが、公立園の必要性を考慮し、全園廃園については考えていない。また、障がい児等を断らずに受け入れていく方針。
- ・公立園は当初の計画以上の定員縮小を行っている。
- ・文部科学省は教育基本法の改定以降、幼児期の教育の改革に向けて準備を進めている。
- ・アンケートでは、保護者のニーズとして認定子ども園の利用希望が増えている。
- ・八王子市としては、保護者のニーズや保育事業者の動向を踏まえ、質の高い幼児教育・保育を一体的に提供するため「認定子ども園」を推進するという方針。
- ・八王子市が推奨するのは「幼保連携型認定子ども園」「幼稚園型認定子ども園」
- ・認定子ども園への移行率は全国で東京都の割合が最低となっている。
- ・八王子市の公立園も認定子ども園への移行を検討し始めているが、公立の場合、内部の課題として職員の身分取扱や教育委員会との連携などいくつかの大きな調整事項がある。

○行政説明への質疑応答

Q 八王子市が公立保育園の認定子ども園化を推進する方向性を定めるに至ったのはいつか。

A 児童数の推移と国の幼児教育の推進が重なり、このような方向性を打ち出した。八王子市の待機児童解消の流れから、量から質への向上への取り組みのために八王子市の組織変更にも本格的に取り組む体制が出来た。
→何年度から取り組んだのか明確化した方が良いのではないか。

Q 0,1,2歳児の教育が重要視されるようになってきたが、幼児教育と保育の棲み分けを市はどう考えているのか。

A アドバイザーが保育園・幼稚園、小規模保育施設等を訪問したうえで議論を進めていく。
→いずれ、アドバイザーの方とも議論できるような機会を頂きたい。

Q 公立保育園の段階的な定員縮小または見直しと言う事だが、エリアの見直しは検討されているのか。協会としては市の南の地域に公設公営の保育園の設置を要望していた。今まで公立保育園のこども園化はないとの回答だったが、ここに来て子ども園化の話が出てきたので、南エリアの公立保育園も含めた動きがあるのかお聞きしたい。

A 南大沢の地区についての要望は承知しているが、八王子市の厳しい財政状況と地区のニーズを考慮すると、そのエリアの元々ある公立の施設の中に保育施設を入れる等の複合的な施設として考えや、小中学校の統廃合があった場合、保育施設として活用することも想定されるが、具体的な話はない。

Q 市が目指すこども園の形態の中で、幼保連携型は国が推奨しているので理解できるが、幼稚園型を入れて保育園型を入れなかった理由は。

A 本来は幼保連携型だけにしたかったが、幼稚園からの移行はハードルが高すぎるため幼稚園型も入れた。あくまで推奨であり保育園型を認めないということではない。保育所型に移行するために改修工事が必要な場合に八王子市から基本的に補助は出さないが、移行する条件が揃えば認定こども園として認める。これは地方裁量型も同様。

→保育の質を重視する流れの中であえて保育所型のみを推奨しないということになると、イメージとしての保育所は幼稚園と比べて教育の部分では劣っているという印象をさらに強める懸念がある。保育所型の認定こども園にならざるをえない保育園に関してはフォローをしていただきたい。

Q 公立保育園の定員縮小数が計画当初より縮小しているという話だが、予想より児童数が減っているのか。また、公立園の定員縮小数より児童数が減る見込みだが、その欠員対策についてはどのような政策を立てているのか。

A 児童数の減少はほぼ予想通りで、コロナもそこまで影響を及ぼしていないというのが個人的な判断となる。また、公立保育園の定員の縮小を拡大することで児童数ラインとの差が狭まっている。このまま数年は維持できると考えている。ただ、市全体で見ると、各エリアを年齢別で個別に見た場合の実際は違うので、市全体では余裕を残しつつ、各エリアで利用定員の柔軟な変更等で個別の対応をしていくことを考えている。

Q 教育公務員の給料表は中核市で作れるのか。また、認定子ども園制度の当初の国の説明では、社会福祉法人・学校法人以外の、いわゆる利益追求型の株式等の法人の保育園は認定子ども園に行かせないという説明だったが、八王子市が今後も国同様の考え方なのか。個人立の保育園の認定子ども園化についてはどう考えるのか。

A 教育公務員の給料表は中核市でなくても作れる。作っているところもある。ただ、八王子市は今までに公立の幼稚園を持っていない為、条例を改正して身分保障をしたり、教育課程等の調整等が必要になってくるため検討するため時間が必要となる。また、教育側の給料表適用の職員と保育側の給料表適用の職員との賃金格差、勤務時間等の格差についても調整が必要となる。

個人立の保育園については、保育所型認定こども園への移行は推奨しないが、個別の事情により保育所型認定こども園を選び、条件を満たせば認める。

Q 認定こども園化が進んでいくと、認定こども園になれない株式会社の保育園等は園児数減少の中で徐々に淘汰されていくというイメージなのか。

A 個人的にはそのようなイメージを持っている。ただ、全国的に見た時に強い株式会社が八王子市に参入してきた場合にどうなるのかはわからない。

Q 今の少子化の流れでは幼保連携型認定こども園に移行しても、いずれ定員減が見えてくる。保育園としてはそうした環境下で各園生き残りを模索していくが、市としては、現在の数のまま定員規模を縮小していくか、現在の規模のまま施設数を減らしていくのか、今後をどのようなイメージで考えているのかお聞きしたい。

A 八王子市というより国が、高齢や障がいの分野も含めて今後の社会福祉法人の在り方を検討している。令和4年度より社会福祉連携推進法人制度が発足する。これは各分野の社会福祉法人が連携し事業を行うという制度。正確なことは今後勉強していく。

Q 八王子市は本来幼保連携型を一番に推奨したいとのことだが、保育所は幼保連携型のみで幼稚園は幼保連携型の外、幼稚園型も推奨している点から、幼稚園側に配慮しているように取れる。

A 実際にその通り。各幼稚園のここ5,6年の園児数の推移状況は驚くべき状況。そういった幼稚園の現状を踏まえたときに保育園型を同様に推奨できなかった面がある。ただ、推奨しないだけで認めないわけではない。

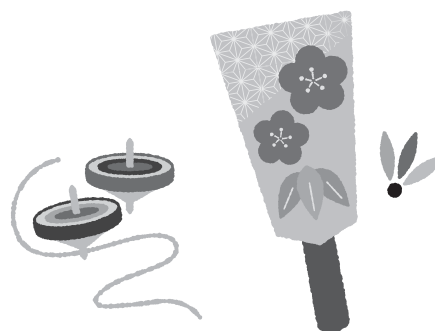
Q 市は幼稚園型への移行は、最終的には幼保連携型への移行へのステップと考えているのか。そうだとしたら、移行までの期限を設けるのか。幼稚園型を経由して幼保連携型に移行させていくのか。また保育園型への移行は補助を出さないという事ですけども、園舎の建て替えについて認定こども園を念頭に入れてないものはどうするのか八王子市としての考えをお聞きしたい。

A 今のままでの保育園として、大規模改修は今迄どおり補助の対象とする。幼稚園については、当分の間、幼稚園型も推奨することとするが、それぞれの幼稚園が認定こども園への移行状況がはっきりした段階で、幼保連携型への1本化という話が出てくる可能性はある。とお話し頂きました。

ブロック会議について、1ブロックから5ブロックまで実施しています。

各部会、委員会報告を経て秦副会長より、ご挨拶を頂き閉会しました。

(梅野)



シリーズ 私の保育園

みころん保育園

園長 青木 美恵子

平成18年に「みころんチルドールーム」という託児施設としてスタートし、平成27年に、認可保育所へ移行、翌平成28年に分園を開園し、現在に至っています。

0、1、2歳児のみの乳児保育園で、3歳児になると、大半の子どもたちが、同法人の「みころも幼稚園」へ進級していきます。

物心ついた時から、マスク顔の大人に囲まれ、“目”だけで、先生の顔を識別し、感情まで読み取る子どもたち。。。

「ゴールデンウィークは、パパがお仕事だったので、子どもと2人で、ベランダでおにぎりを食べました。」と、お話してくれた1歳児の母親。。。

例年であれば、みころも幼稚園の行事に参加し、交流を深めながら、スムーズな進級移行を目指すのですが、不要な接触は避けよう、との思いから、ほとんど実現されませんでした。

数少ない参加行事の“移動動物園”で、時間差での餌やりや、抱っこを体験できたことは、ささやかなお楽しみでした。

けれども、不憫に感じる大人の思いをよそに、子どもたちはケラケラと笑い、モリモリ食事をし、安心しきった顔で、毎日スヤスヤと眠っていました。



行事はすべて縮小され、職員たちは、モヤモヤする気持ちの中で、それでも精一杯、子どもたちが楽しめる遊びを考え出していました。

プールの中に入れない真夏は、ベランダでカラフルな寒天や、色のついた氷で遊んだり、全身絵の具だらけになって、笑い合ったり。。。

観客なしの運動会ごっこでは、誇らしげに競技を終えた後、ピカピカの宝箱を鍵で開け、中からご褒美のメダルを取り出し、満足そうな顔を見せてくれました。

できないことばかりに思いが及んでいたのは、大人だけで、小さな子どもたちは、こんなにも毎日を楽しんでくれていました。

「毎日、とっても幸せだよ！」そう言っているような笑顔に、救われ続けた2年間でした。

来年度は、今まで以上に、子どもたちと、楽しくたくさん遊びこめるように、現在、職員の業務負担軽減に向けて、働き方の見直しや話し合いを進めています。

まだまだ駆け出しのみころん保育園です。

今後も、協会園の先生方のご指導をいただきながら、保護者の皆様・子どもたち・職員のひとりひとりを大切に、明るい気持ちで日々を楽しんでいこうと思っています。

八王子市立中野保育園

園長 吉 村 里 美

平成22年4月より、公立保育園を社会福祉法人公徳福祉会で指定管理保育園として運営をさせて頂いてから早いもので、11年が過ぎようとしています。当初は、公立の流れを引き継ぐことで、子どもたちはもちろん保護者の方に安心して頂けるよう努力しながら少しずつ、職員と検討を重ねながらより良い保育が出来るように進めてまいりました。そして、昨年10年の節目の時に、これからは行事を減らすのではなく、色々な面を見直し、検討し簡素化を徐々に目指すことと致しましたが、コロナ禍になり早急に、集団に於いての生活面、行事面、保育面等を見直すこととなり、子どもたち、保護者、そして職員の活動がとてもスムーズになり、いい方向への転換になりました。また園では、コロナ禍ではありますが、保護者の皆様のご協力と、子どもたちが毎日元気に外に出て遊び、しっかりと食事をとることで、コロナはもちろん色々な感染症にも罹患することなく過ごすことが出来ています。また、感染対策も子どもたちのストレスにならないよう、過度にすることはせず、今までと変わらない生活が出来るよう気を付けて保育に当たることで、子どもたちが笑顔でいられていることが何より嬉しいです。

園庭はけっして広くはありませんが、園の前は浅川の河川敷であり、近隣の方々の見守りもあり、自然豊かに恵まれ季節折々の場面が展開し子どもたち



が安心して遊べる『第二の園庭』になっています。木々や草花を、子どもたちは素敵に工夫し遊びに取り入れ楽しんでいます。また、園庭で小さいながらも、畑があり色々な野菜の栽培をし、年齢ごとに収穫し、給食で提供したり、また少しではありますがお家に持ち帰りして頂き、家庭での会話に繋がればと思っています。



また、『野菜の栽培』も含め、最近の家庭ではなかなか出来ない体験、『梅干し作り』『梅ジュース作り』『木を削り作る箸作り』『味噌作り』や、全クラスで取り組んでいる『独楽回し』等を行っていますが、子どもたちはもちろん、職員も経験していないことも多く、子どもたちと一緒に取り組み、学ぶことが出来ています。今後も色々な体験を、子どもたちと一緒に取り組む楽しさを継承していきたいと思っています。

編集後記

ワクワク・ハッピー・サンキュー・ハーモニー…。保育の心得のようですが、これ、今年の箱根駅伝で優勝した青山学院の歴代の作戦名です。石井会長が冒頭のご挨拶に書かれているとおり、新種株の感染拡大や少子化など大変な時代が続きそうですが、いい保育をして、子どもたちの笑顔に力をもらいながら、力を合わせて頑張っていきたいですね。ちなみに6度目の優勝となった今年の作戦名は「パワフル」でした。今年もよろしくお願いします。(筒井)